今から八十五年前の明日、つまり十月五日に、世界で初めてのことをした四人の人がいます。その人たちはなんと、立教大学の人たちです。

一九三六年十月五日の午後二時五十五分、立教大学山岳部の四人と新聞記者一名、シェルパ（山の道案内や荷物運びを手伝う人。山登りの達人。）一名の計六名の登山隊が、インド北部のナンダ・コート（六八六一メートル）という山に世界で初めて登りました。富士山二つ分くらいの高さの山です。

ナンテコッタではなく、ナンダ・コート。ヒマラヤ山脈という高い、高～い山が連なるところにある山で、日本人がヒマラヤ山脈にある山に登ったのはこれが初めて。しかも世界中で誰も登ったことがなかったので、世界初。歴史的な偉業でした。

この頃の日本は、第二次世界大戦という戦争に向かう時期で、物騒な世の中になって来ていました。実際、立教大学の人たちがナンダ・コートに初めて登った年の二月二十六日には、六年生がこれから習う二・二六事件なども起こりました。

この、二・二六事件というのは、陸軍の一部の人たちが当時の総理大臣や大臣を襲い、武力で自分たちの意見を通そうとした事件です。この時の総理大臣は岡田さんという人で、銃で撃たれそうになりましたが、押し入れの中に隠れていて助かりました。

何人もの犠牲者が出て、これ以後軍部が力を持ち、日本は戦争へと突き進んでいきます。そんな時代でしたから、ナンダ・コートに向かう費用の募金活動も遅れ、出発も危ぶまれたようです。そんな中での登頂成功。頂上に立った人たちは、雪の上にひれ伏して泣いたそうです。

喜びもつかの間、頂上にゆっくりと滞在する余裕はなかったようです。立っていることができないほどの風。寒さ。高山病もひどかったことでしょう。

登山隊の皆は、持ってきた日の丸の旗・立教のあの紫の校旗・新聞社の旗をハンマーなどに縛り付けて、頂上の雪の中に深く埋め、万歳三唱をして下山したそうです。

今から四年前。このナンダ・コート初登頂の成功から八十一年目に、立教大学の元山岳部の人を含む五名の登山隊が、九月中旬に再び、ナンダ・コート登頂に出かけました。

目的は、初登頂のメンバーが山頂にハンマーなどにくくりつけて埋めてきた、立教の旗などを取り戻すこと。八十一年前と同じ十月五日の登頂を目指して、雪深く埋もれた旗を探すために、ハンマーに反応するようにと金属探知機も持って出かけたようです。

結果は…。頂上までの距離二百メートルまで近づいたところで、最大傾斜度は六十度。軟らかな雪。ずぶずぶとどこまでももぐって行ってしまうような雪質のため、ハーケン（岩や氷に打ち込む金属製のくさび）が効かず、危険と判断し退却したそうです。

あと二百メートル。どれだけ悔しかったことでしょう。でも、何よりも大切な登山隊員の命を守るために、隊長さんは退却を決め、五名全員無事で日本に戻ったそうです。

ナンダ・コートの頂上には深い雪と氷に閉じ込められて、立教の紫の校旗が今でも眠っています。

二日の土曜日、本当は運動会のはずでした。楽しみにしていた人は、さぞかし残念だったことでしょう。私たちは、君たちやご家族の大切な命を守るために、今回の運動会を中止にはしましたが、君たちのアイデアも聞かせていただいて、十一月にそれに代わる何かをやろうではありませんか。時には「勇気ある撤退」も必要ですが、コロナの奴め、このままにはしておくものですか！

（立教小学校校長　田代　正行）